

1P125

乳幼児における社会経済的状況と歯磨き行動との関連：沖縄県A市こどもの生活等に関する調査

喜屋武 享^{1,6}、神谷 義人^{2,3}、金城 昇⁴、仲宗根 正⁵、高倉 実⁶

¹沖縄女子短期大学

²名桜大学人間健康学部

³琉球大学大学院保健学研究科

⁴琉球大学健康づくり支援プロジェクトLib

⁵沖縄南県部保健所

⁶琉球大学医学部

【背景】

歯磨き行動を含む健康行動には、性、年齢、性格特性等の個人的要因だけでなく、職業や収入、学歴といった社会経済状況（SES）が影響していることが指摘されている（Fisher-Owens et al., 2007）。日本では、保護者による仕上げ磨きをはじめとする歯口清掃とSESとの関連に関する疫学的知見が限られているため（日本口腔衛生学会, 2013）、検討の余地がある。

本研究では、SES指標に代表される世帯収入、学歴、家族構成と子ども自身の歯磨き習慣および保護者の仕上げ磨き習慣との関連を明らかにすることを目的とする。

【方法】

本データは、沖縄県A市が子育てや教育など子どもに関連する施策等に活用することを目的として実施した「こどもの生活等に関する調査」の一部である。対象は、A市に在住する0歳から就学前の子を持つ保護者とし、住民基本台帳登録者の中から、3,580世帯を無作為抽出した。調査方法は、郵送法による無記名自記式質問紙調査であった（回収率44.6%（1,593件））。本研究では、3歳から6歳の子をもつ保護者のデータに限定し分析を行った。分析に用いた指標は、人口統計学的要因、社会経済状態の指標としての年間の世帯収入・学歴・家族構成、口腔清掃行動指標としての子どもの歯磨き行動・保護者による仕上げ磨きであった。交絡因子として、朝・夕食摂取状況、睡眠時間、子どもに対する健康観を用いた。

【結果】

χ^2 検定の結果、子どもの歯磨き習慣は所得階層と関連し、保護者の仕上げ磨き習慣は所得階層、保護者の学歴、こどもの人数と関連した。交絡因子の影響を考慮した多重ロジスティック回帰分析の結果、子どもの歯磨き習慣と所得階層との関連は継続して認められた。一方、保護者の仕上げ磨きに対しては所得階層の関連が消失し、保護者の学歴および子どもの人数の関連が認められた。

【結論】

SES指標の中でも、収入が低い世帯ほど子どもの歯磨き習慣が身についておらず、保護者の学歴が低く子どもの人数が2名以上の家庭ほど保護者の仕上げ磨き習慣が乏しいことが明らかにされた。